

「蛭川地区のリニア岐阜県駅の意識調査」の報告書

2026 年 7 月 6 日

中津川北商工会蛭川支所 支部長 糸魚川和仁

中津川北商工会蛭川支所では、リニア岐阜県駅を利用し地域振興を図るという観点から、蛭川地区への住民意識調査を実施しました。

その調査結果について報告致します。

調査概要

調査対象：中学生以上の蛭川地区住民 ※2026 年 4 月末の蛭川地区住民数 2,872 人

有効回答数：197

調査期間：2026 年 6 月 1 日～6 月 30 日

調査方法：インターネットのウェブ・フォームによるアンケート。

広報にアンケート用の QR コードを記載した依頼文書を同封し配布。

蛭川地区内の事業所に QR コードを記載した依頼文書を掲示。

調査項目：

- ・性別
- ・年代
- ・【質問 1】リニア開通に期待すること（複数回答可）
 - (1) 自身のビジネスや観光で関東・関西方面に行くのに利用したい
 - (2) ビジネス活性化につなげて働ける場所が増えるとよい
 - (3) 国内外から観光客が増えるとよい
 - (4) 関東・関西圏の生活圏として住民増につながるとよい
 - (5) リニア岐阜県駅を起点とした交通ネットワークの整備
 - (6) その他
- ・【質問 2】リニア関連のインフラ整備について期待すること（複数回答可）
 - (1) 濃飛横断道路（中津川～下呂）の整備
 - (2) 新道路（新東雲大橋～高山大橋）の整備
 - (3) 白川町（黒川）へ通じるトンネル・道路整備
 - (4) 蛭川地区に「道の駅」整備
 - (5) 恵那峡の観光資源整備
 - (6) 中津川市への公的機関・企業・研究機関誘致
 - (7) その他
- ・その他、自由意見

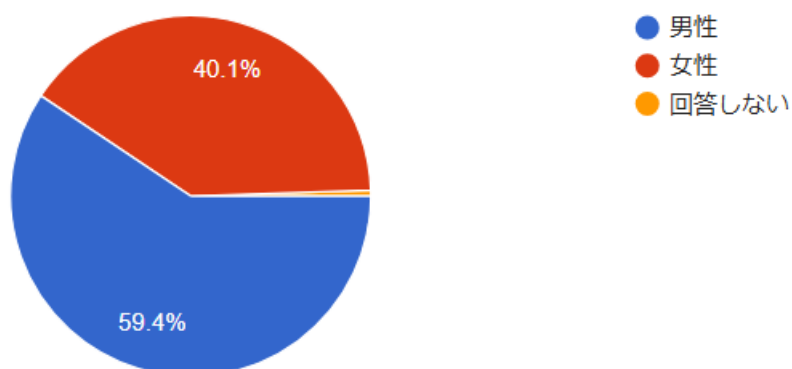
調査結果と分析

本調査での調査結果と分析については以下のとおりです。

性別

性別

197 件の回答



- ・回答者の男女比率は、男性が約 6 割、女性が約 4 割。世帯単位で依頼文書を配布していることもあり、世帯主の男性による回答が多くなったと考えられる。

年代

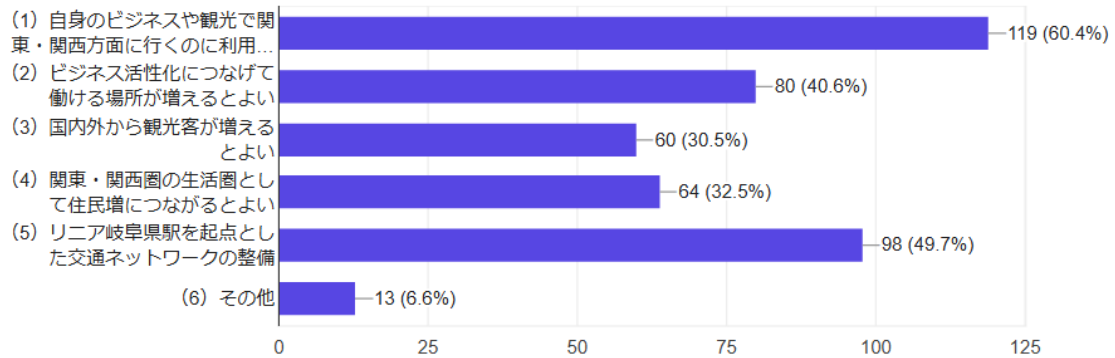
年代	回答数	割合
中学生	1	0.5%
高校生	7	3.6%
18歳～20歳	5	2.5%
21歳～29歳	3	1.5%
30歳～39歳	15	7.6%
40歳～49歳	58	29.4%
50歳～59歳	62	31.5%
60歳～69歳	31	15.7%
70歳～79歳	11	5.6%
80歳以上	4	2.0%
合計	197	100%

- ・回答者の多い年代は 40 歳～49 歳 (58 件) と 50 歳～59 歳 (62 件) で計 120 件 (60.9%)
- ・60 歳以上のシニア層は合わせて 46 件 (28.7%) で、40 歳以上が 166 件 (89.6%)
- ・30 歳未満 (中学生～29 歳) は 16 件 (8.1%) と少数であった。

【質問 1】リニア開通に期待すること（複数回答可）

【質問1】リニア開通に期待すること（複数回答可）

197 件の回答

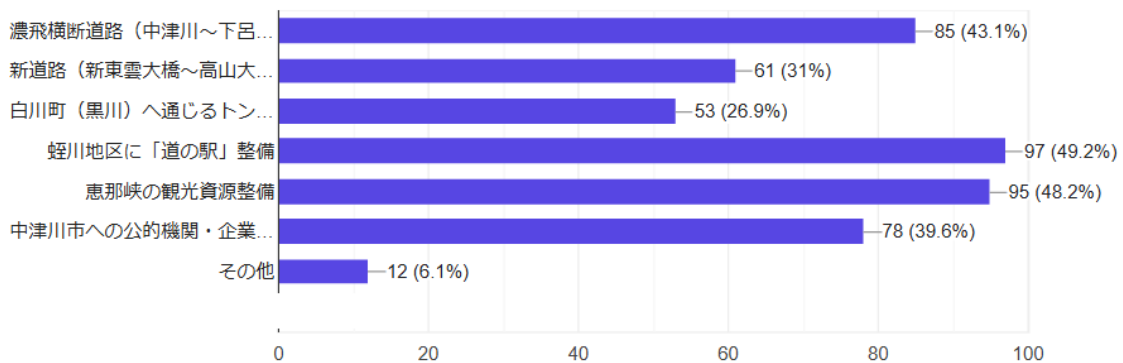


- ・「自身のビジネスや観光で関東・関西方面に行くのに利用」が 119 件（60.4%）で最多。
- ・次いで「リニア岐阜県駅を起点とした交通ネットワークの整備」が 98 件（49.7%）と交通網の整備への要望が強い。
- ・「ビジネス活性化につなげて働ける場所が増えるとよい」も 80 件（40.6%）と期待感も強い。

【質問 2】リニア関連のインフラ整備について期待すること（複数回答可）

【質問2】リニア関連のインフラ整備について期待すること（複数回答可）

197 件の回答



- ・「蛭川地区に道の駅整備」が 97 件（49.2%）、「恵那峡の観光資源整備」が 95 件（48.2%）と高い割合を占めており、道路整備以上に要望が強い。
- ・道路整備については「濃飛横断道路」が 85 件（43.1%）と高い割合を占めており、既存の道路整備計画に蛭川地区へのアクセスを良くするように盛り込むことを要望する声が多い。
- ・「中津川市への公的機関・企業・研究機関誘致」が 78 件（39.6%）で働く場所の確保への要望が強い。

その他、自由意見の要約

本調査での自由意見の記入は 40 件あり、意見を全体として整理すると、「リニア開通を地域振興の大きなチャンスと捉えつつ、開通だけでは効果が限定的で、周辺施策との組み合わせが不可欠」という共通認識が強く表れていました。

肯定的な期待が多数を占める一方で、現実的な条件や懸念を指摘する声もあり、商工会としては様々な意見を集約しつつ、地域振興策の検討に活用していきます。

リニア開通に期待する主な効果（多数派の声）

交通アクセスの劇的向上により、名古屋・大阪方面への移動時間が大幅に短縮され、観光客の増加、企業誘致、人口流入・定住促進が期待されている。

特に岐阜県沿線地域（中津川市、恵那市など）では、若者や子育て世代の移住・定住が進み、地域の活性化や雇用創出につながるとの意見が非常に多い。

「住みやすく働きやすいまちになる」「地域のブランド力・知名度が上がる」「二次交通が整えばさらに効果的」といった前向きな表現が繰り返し見られる。

リニアを「起爆剤」や「呼び水」と位置づけ、地域経済の好循環を生み出す可能性を高く評価する声が目立つ。

「開通だけでは不十分」という共通の指摘

ほぼ全ての意見で共通して強調されているのが以下の点です。

- ・ 二次交通・周辺インフラの整備が必須
(駅から各地域へのバス・タクシー・道路網の充実、コンパクトなまちづくりなど)
- ・ 具体的な移住・定住支援策の必要性
(子育て支援、住宅支援、就労支援、教育・医療の充実)
- ・ 地元企業・産業との連携や観光資源の磨き上げ
- ・ リニア効果を地元住民が実感できる形にするためのきめ細かな政策

「リニアが通るだけで地域が良くなるわけではない」「通過するだけでは意味がない」という指摘が複数あり、「リニア+αの施策」がセットで求められています。

慎重・懸念の声（少数だが明確に存在）

- ・ リニアに過度な期待をせず、他の地域振興策（産業振興、教育、医療など）を優先すべきという意見
- ・ 建設コストや税負担、環境への影響を懸念する声
- ・ 「実際に地元之恩恵が回ってくるか疑問」「効果を実感できるまで時間がかかる」といった現実的な見方

・本調査での意見の傾向は下表のとおりです。

項目	意見の傾向	主な内容
肯定的期待	非常に強い	アクセス向上 → 観光・企業・人口流入
条件付き賛成	最も多い	リニア+二次交通・定住支援・産業振興の組み合わせ
慎重・懸念	少数だが存在	コスト・環境・即効性への疑問
具体的な要望	多数	駅周辺開発、移住支援策、若者向け施策

総評（商工会蛭川支所としての分析と見解）

・「リニア岐阜県駅を起点とした交通ネットワークの整備」が 98 件（49.7%）と交通網の整備への期待は強く、中津川市・岐阜県への要望を継続していきます。

・特に濃飛横断道路と蛭川地区へのアクセスを高める道路整備を要望し、リニア開通による誘客に備えるよう働きかけをしていきます。アンケートの自由意見でも、リニア岐阜県駅だけでは地域振興にはつながらず、そこから観光誘客やビジネス需要を創り出す取り組みがあつて初めて効果が発揮されるという声が多数あり、これを受け止めていきます。

・「蛭川地区に道の駅整備」が 97 件（49.2%）、「恵那峡の観光資源整備」が 95 件（48.2%）と高い要望があることを受け止め、観光と地域雇用促進の観点からも検討をしていきます。

・商工会蛭川支所では、恵那峡の環境整備の一環として、「寅さん（渥美清）第 44 作ロケ地石碑」や地域の「子ども手形の石板」の整備、「紅岩」周遊路の整備を行っており、今後も継続していきます。

・「道の駅」については、商工会蛭川支所による先進事例調査を行っていきます。

・リニアを単なる「通過するインフラ」ではなく、「地域を活性化させるツール」として最大限活用するための、地元自治体・住民・事業者が一体となった取り組みを継続したいと考えます。